

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770801450		
法人名	アミコ株式会社		
事業所名	アミライフ・東住吉 第①ユニット		
所在地	大阪市東住吉区住道矢田6丁目2-24		
自己評価作成日	平成22年2月16日	評価結果市町村受理日	平成22年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770801450&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「至れり尽くせり」ではなく、「持ちつもたれつ」の関係で、できることはできるだけ自分で行ってもらい、安易に車椅子などを使用するのではなく、一歩でも二歩でも自分の足で歩いてもらえるような援助を心掛けています。また、「なぜそんな行動を？」を考え、「思い」に気づき、「その人らしい生活」ができるようなそんなグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

笑顔・信愛・憩いの法人理念を基に、年数の経過とともに認知症の知識を深める中で、ホームとしての支援目標を「人と人とのお付き合い」と定めて支援を展開しています。更に利用者の思いに気づき、その人らしい生活を目指す事を位置付け、職員は利用者の立場に立った考えを追求し、出来るだ多くのコミュニケーションを図り、気づきを高め利用者本位の介護に努めています。利用者の重度化の中で、看護師でもある管理者のリーダーシップのもとに職員は看取りを受入れ、心を合わせた取り組みを展開されています。ほとんどの家族が少なくとも毎月ホームに来られており、積極的に意見を聞くとともに、家族に対して毎年アンケートを実施し多くの回答を得ていますが、ホームでは更に工夫をしながら利用者のより良い生活にチャレンジされる意向です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔」「信愛」「憩い」を大きな柱とし、「人と人とのつきあい」を理念としている。また、「なぜ？」を考え「思い」に気づき、「その人らしい生活」ができるようなグループホームを目指している。	地域を含む人と人のお付き合いを謳った理念のもと、ホームの経年の中で認知症理解を深め、利用者の生活を支えるための支援目標に発展させた。理念は玄関やフロアに掲示し、毎日朝礼で唱和したり、会議では常に意識し話し合い日々の取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の「敬老会」や「子供おみこし」の見学などに参加している。	自治会に加入し会議に出席したり、敬老会への参加や子ども神輿の見学などを楽しみ、ホーム周辺の掃除やゴミ拾いをする中で、近所の方々と挨拶を交わし交流を深めている。近くの大学の実習生の受け入れを行ったり、管理者が認知症の講師として出掛け認知症理解を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770801450&SCD=320	実践を積み上げている段階である。近隣の短期大学からの実習を受け入れたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員をはじめ、地域包括センターとの交流や、情報交換、情報提供の場になっている。	運営推進会議は、町会長や婦人部長、民生委員、社会福祉協議会役員、地域住民、地域包括支援センター職員、家族等の参加を得て、2ヶ月に一度行われている。ホームの活動や状況、ヒヤリハット等の報告を行い、参加者からは様々な意見が出されホームの理解に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH連絡会、地域包括センターなどを通じ、相談をおこないながら、協力関係を築いている。	事故報告等の必要な書類の提出や通知を受けたりのやり取りがあり、また運営推進会議の議事録を届けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に「高齢者虐待を考える」(認知症介護研究・研修センター発行)の事例集を講読し、意識を高めている。 身体拘束は行ったことはない。	職員には、身体拘束禁止について考え方を伝え、具体的に行動の中で理解ができるようにしている。玄関は防犯上施錠しているが、各ユニットの玄関は開錠され自由に行き来が出来るようにされている。また出かけた希望やそぶりがあれば一緒に出かける支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に「高齢者虐待を考える」(認知症介護研究・研修センター発行)の事例集を講読し、意識を高めている。 スタッフ同士で、声をかけあうなど、注意しあえる環境作りに努めている。		

アミライフ・東住吉 第①ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	大阪市社会福祉協議会の「あんしんさぽーと」のスタッフに相談しながら支援するケースもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退居時には書類を提示しながら説明を行っており、不明な点などは電話での問い合わせも受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、ご家族にアンケート用紙を送付し、意見などを伺う機会を設けている。また、玄関前に「意見箱」を設置し、無記名で意見や苦情を伝えることができるようにしている。	ほとんどの家族は毎月来訪があり、来訪時には積極的に意見を聞くようにしているが、意見や要望はなかなか出にくいのが現状である。毎年アンケートを実施し、80%以上の回収があり、その結果を家族に伝えている。	多くの家族の協力があり、アンケートの回収率も良いが、今後意見を出せるようにしていきたいと考えてられることもあり、アンケート内容を返答しやすいものであったりテーマを絞るなどの工夫をされてはいいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員に対し、個別に意見を聞く機会を持つように心掛けている。	職員の意見や悩みがあれば、すぐに直接管理者には相談があり返答すると共に、職員が積極的に企画に繋がる提案をするよう体制作りをしている。現任の職員にはステップアップの目標を持つように勧め、目標に対する支援を行い、運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に意見を聞く機会を持つようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者からの申し出のもと、実施出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心に、他の事業者と交流をもてるようなネットワーク作りをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活してきた歴史に配慮しながら、ご家族をはじめ、本人ともコミュニケーションを図り、困っていることや不安に思うことなど表現できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面談などで状況を伝えと共、不安や思いを早い段階で聞くようにし、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じ、出来る範囲での対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員と一緒に笑い、話しができ、井戸端会議ができる雰囲気大切にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、友達などの訪問があった際には、必ずお茶を出し、言葉を添えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話やご家族からの情報をもとに、思い出話やそれにまつわる話を聞くなど、回想出来る話題作り努めている。	元の住まいの近隣の方々の訪問があり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。重度化された方にも知り合いの来訪があることも多く、喜びのひとつとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が状況に応じ、仲介にはいたり、その場が和やかな雰囲気になるように努めている。また、個々に不愉快な思いをしないよう、意識して接するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までに退居された方のご家族からご挨拶やお電話を頂くことがある。また、入院された方に対しても可能な限りお見舞いに行くなど、今までの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の体調や気分などに配慮しながら対応できるように努めている。	暮らし方の希望などは、家族の来訪時面談のなかで聞くようにしている。生活記録の中で、出来るだけ会話を記入するようにし、希望や思いに繋がることをプランに反映できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族とのコミュニケーションから、これまでの生活背景や経緯などを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況を申し送りや記録などをとおして総合的に把握し、本人の意志を尊重しながら過ごすことが出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの情報提供や記録、モニタリングを通し、朝礼などでケアのポイントなどについての検討を行っている。ご家族に対しては随時電話連絡を入れるなどして意見を聞くようにしている。	3カ月毎にモニタリングを行い、職員や家族の意向を聞き6か月ごとにプランを更新している。日々の記録はケアプランに基づいており実施状況を振り返り、必要に応じて医師の意見も反映しつつ作成している。職員からの意見は、申し送り時や記録からケアプランに向けた情報を収集しているが、カンファレンスとしての時間は取りにくい状況である。	ケアプランに向けた情報を申し送り時での意見や報告等で収集が行われているが、方法を講じられ顔を合わせたカンファレンスを開催されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアや本人の様子を介護記録として残し、情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、出来る範囲での支援に努めている。		

アミライフ・東住吉 第①ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に応じ、出来る範囲での支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り、本人、ご家族の希望に添えるように支援している。	入居時に以前からのかかりつけ医の希望を聞き決めている。協力医からは2週間に1度の往診があり、24時間連携体制がなされている。また、歯科の往診があり口腔ケアにも協力頂いている。管理者が看護師でもあり、日常的な健康管理を行い支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は、看護師資格を持っているため、介護職員からの相談などにも早期に対応でき、日常の健康管理なども比較的スムーズに行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	管理者は、定期的に面会に行き本人の状態を見ながらご家族、主治医との連絡調整を行っている。また、介護職員も可能な限り面会に行き、本人の支えになるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医によって方針が異なるため、ご家族との話し合いを重ね、協力をしていただくと共にできるだけ意向に沿ったケアを提供できるように努めている。	入居時に重度化や看取りの指針を伝えている。状況の変化の中で、家族と繰り返し話し合い、かかりつけ医や家族の協力のもとに実際の看取りの経験があり、職員は心を合わせ受け入れの姿勢を持ち支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にマニュアルの確認をするようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1～2回、消防署の立ち会いのもと、避難訓練を実施している。	年に2回消防署の立ち会いで、昼間想定避難訓練を実施しています。運営推進会議で報告し援助依頼を行っている。	重度化された利用者もおられる中、日中の想定だけでなく夜間想定訓練が地域の協力のもとに行われる事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気をつけ、温かみのある言葉を使うように心掛けている。	資料を使い尊厳に対する意識付けを行い、お互いの理解に繋げている。言葉かけについては常々注意を喚起し、お互いに注意しあうようにしている。不適切な言葉遣いがみられた時には皆で注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が「伝えたいことは何？」なのかを考えながら接するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人から希望があった場合など、出来るだけその希望に添うことができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の理美容を利用している。また、服装などは本人と話しをしながら選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(米をとぐ、テーブルを拭く)や後片付け(食器運び、洗い物)など、出来る範囲でお手伝いをしていただいている。	食材は毎週の献立に沿って業者から届き、調理している。利用者は食器を拭いたり配膳で力を発揮され、職員と共にテーブルを囲み、食事を楽しんでいる。時々鍋物や好みの具材でおでんを作ったり、弁当持参で出かけて外で食べるなど自分たちで作る食事の支援に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲がないときなどは食べやすい物を出したり、好きなものを食べていただくなどしている。水分補給も定期的にお茶やショウガ湯など数種類のものを出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うよう努めている。		

アミライフ・東住吉 第①ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、排泄の声かけや誘導をおこなっている。いつもオムツやパットをつけっぱなしにするのではなく、夜間のみ使用するなど、その方に応じた対応を行っている。	利用者毎の排泄状況に合わせてトイレへの誘導を行い、日中の布パンツでの生活に向けて援助している。利用者によって違うパッドの利用や夜間のポータブルの使用を行うなど状況に応じた支援を行う中で排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録をとおして確認できるようにしている。排便のない方には牛乳や冷水を飲んでもらったり、バナナや乳製品を食べてもらったり、腹部のマッサージなどを行ったりして、出来るだけ自然排便があるように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人が入浴を拒否してしまうときなどは、時間や日にちを変更するなどの対応を行っている。	利用者の要望に合わせる状況には有るが、夜間や午前の希望者はなく、少なくとも週に2日は入浴できるように支援している。午後から夕食時間の頃までが多く、好みによって一日おきに入浴されている利用者もおられる。拒否傾向の方には無理強いする事のないように柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も自由に横になることが出来るよう居室の掃除やシーツ交換など時間の配慮をしている。また、眠れないときは、気持ちが落ち着くようにリビングで一緒に過ごすなどの対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書やお薬手帳などで確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った役割を持ってもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠方に行きたいなどの個人の希望による個別対応は行っていない。しかし、近所への散歩や年間の外出企画や行事などで出かけることが出来るよう支援している。それにはご家族も参加出来るよう働きかけている。	毎日ホーム周辺の散歩に出かけ、天気や季節を感じていただいている。年に数回は外食や外出企画を行っている。また近場のスーパー銭湯での足浴を楽しむこともある。	

アミライフ・東住吉 第①ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持つことで安心される方には、ご家族のご理解のもと、自分で所持してもらうようにしている。買い物などは同行し残金の管理が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置していないので、自分で好きなときにかける、と言うことはできないが、希望があれば使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンを閉めきった状態にせず、できるだけ表の光を取り入れるように心掛けている。また、入居者の目につく場所に季節の花や飾り物を置いている。	大きな窓から光が降り注ぎ、季節の花が飾られ、大きく育った金魚が悠然と泳いでいる。木のベンチやソファがあり自分の居場所を見つけ、安心して過ごせるよう配慮している。換気をこまめにし湿度の保留に努め健康に配慮した支援を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファの他木製のベンチを置き、好きなように過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特別に宿泊できる部屋は設置していない。居室内は本人とご家族が相談の上で持ち込む物を決めることが出来るようにしている。	洗面台が居室に設置され、机・椅子、テレビ、筆筒やチェストなど生活に密着したものを利用者の希望に沿って持参いただいている。利用者の戻る家があることで安心できる方もおり、全て馴染みの物を持ち込むのではなく、落ちける物を選んで頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内や廊下の壁側などに手摺りを設置しており、身体機能を活かすことが出来るようにしている。また、一人ひとりの「できること」「わかること」の把握に努め、さりげないサポートを心掛けている。		